

講義名	対)心理学実験基礎（6205）				
担当教員	銅直 優子 / 福田 哲也 / 池田 瞳子				
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限		授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
この授業は、心理学実験を学ぶ際に必要な知識と技術を習得することを目的としており、観察法、調査法、実験法の基礎を学習する。 観察法では、観察とはどのようなものかを理解したうえで、結果をまとめる際に必要なグラフや表の特徴と、その作成方法を学ぶ。表や図の記載方法や技術的なスキルの習得に加えて、文献の検索方法と記事方法の習得を目指す。 調査法では、調査法とは何かについて理解し、調査目的に合った調査用紙の作成、収集したデータの分析、分析結果の作表と作図について習得する。そして、分析した結果を文章で記述する方法を学ぶことでレポート作成の基礎の習得を目指す。 実験法では、記憶実験に参加してもらい、その時得られたデータを処理してもらう。その後実験とは何かを学習してもらい、自ら参加した記憶実験について理解を深める。最後にレポート作成について指導する。					
到達目標					
【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、担当教員から指示・説明があるのでそれに従うこと。 心理学的現象を科学的に証明するための方法の基礎を理解することができるようになる。 Excelを使用し、調査用紙、表やグラフが作成できるようになる。 実験や調査などの結果の処理が理解できるようになる。 心理学実験や調査の報告書の作成の基礎が理解できるようになる。					
提出課題					
授業中におこなった実施内容を課題として提出してもらう。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
課題作成の際と提出後に修正点等のフィードバックが行われる。					
評価の基準					
授業内での実験取り組みの態度や理解度（50％） 最終課題（50％）					
履修にあたっての注意・助言他					
認定心理士資格取得の必修科目である「心理学実験演習」（2年後期開講）を履修する前に、本科目を履修すること。 観察、実験、調査の3種類の課題提出が必須となる。 1回でも欠席すると、授業内容を理解できなくなる可能性がある。 また、対面授業が困難となった場合は、講義連絡を通じて変更の指示を行う。					

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

プリント資料及び参考文献
適宜資料を作成し配付する。

授業計画

1．観察法とはなにか（池田）
2．結果の記述に必要な図表の特徴と作成方法（1）：図表の特徴の理解、データの入力（池田）
3．結果の記述に必要な図表の特徴と作成方法（2）：図表の作成（池田）
4．結果の記述に必要な図表の特徴と作成方法（3）：レポートにおける図表の使用方法（池田）
5．文献の検索と記載方法（池田）
6．調査法について：調査計画の立て方と調査用紙の作成（綱直）
7．調査とデータの整理：調査用紙の作成とデータの入力（綱直）
8．統計処理と結果の整理：t検定、結果表の作成（綱直）
9．結果の整理：結果図の作成、結果の記述（綱直）
10．レポートの作成基礎：目的、仮説、方法、結果の記述方法を学ぶ（綱直）
11．記憶実験の体験（福田）
12．データ整理：ワークシートの使い方、関数の理解、グラフの作成（福田）
13．実験法とは：実験とは何か、独立変数、従属変数、剰余変数の理解（福田）
14．記憶実験の解説（福田）
15．実験の報告、レポート作成の注意点、完成レポートの例示（福田）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

当科目は心理学実験の基礎について、受講生が実際にを行いながら学ぶものである。そのため、毎回新しい内容に取り組む際には、必要な資料が配付され、その課題について説明がおこなわれる。配付された資料を受講回までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと。（2時間）
毎講義で必要な資料が配付され、説明がなされ、課題が出されることとなる。
毎回受講後はその資料をもとに講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させることが重要な復習となる。（2時間）
詳細は、授業内に各担当教員から指示・説明があるのでそれに従うこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標を達成することで、DPの「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。
目標を達成することで、DPの実験の社会共創活動、ビジネスに実践的に活用することができる能力となる。
目標を達成することで、DPの「心理学の研究法に関する基礎的知識」を身につけ、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測するための基礎とすることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業は実施しない。

実務経験の有無及び活用

備考

対面授業が困難となった場合は、講義連絡を通じて変更の指示を行います。